学校番号	２１３

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	新課程　高等学校　数学Ｂ（数研出版）						
副教材等	新課程　教科書傍用　クリアー数学Ⅱ＋B＋C（数研出版） ［新版］高 1･高 2 スタンダードレベル数学 B(株式会社リクルート)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学 B では新しい概念を学ぶことになります。難易度もはるかに高くなります。授業や課題に積極的に取り組むのは当然として、家庭での復習がより一層大切になります。定期考査前にまとめて学習するだけで十分に理解するのは極めて困難です。常日頃から復習し、たくさん問題を解く習慣をつけることをお勧めします。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数列について，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
【思考力、判断力、表現力等】
数列と実生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学を通して筋道を立てて物事を考える力を身につけ、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と実生活の関わりについて認識を持ち，事象を数学的に解釈する技能を身に付ける。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力をつけるとともに，数学と実生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に表現・処理したりする能力を身に付ける。	数学を通して筋道を立てて物事を考える力を身につけ、数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	等差数列と等比数列	等差数列 等比数列	a:数列の定義, 表記について理解している。 b: 数の並び方からその規則性を推定して, 数列の一般項を考察できる。 c: 数の並び方に興味をもち, その規則性を発見しようとする意欲がある。	課題評価 定期テスト	課題評価 定期テスト	自らの理解度の把握
	いろいろな数列	和の記号Σ 階差数列	a: 記号Σの意味と性質を理解し, 数列の和が求められる。 b: 数列の和を記号Σで表して, 和の計算を簡単に行うことができる。 c: 自然数の和の公式を用いて自然数の 2 乗の和の公式が導けることに興味をもち, 自然数の 3 乗の和の公式を導こうとする。また, さらに高い次数の累乗の和の公式についても考察しようとする。	課題評価 定期テスト	課題評価 定期テスト	自らの理解度の把握
	漸化式と数学的帰納法	漸化式 数学的帰納法	a: 漸化式の意味を理解し, 具体的に項を求めることができる。 b: 初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。 c: おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について, 考察しようとする。	課題評価 定期テスト	課題評価 定期テスト	自らの理解度の把握

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度